

研究計画概要

助成年度・種別	2020年度 若手研究助成
研究者	唐 音啓
所 属	東京大学大学院 教育学研究科教育心理学コース 博士課程後期
研究テーマ	中学生の集団いじめ予防に関連する要因の検討 -学級の「人気者」に注目して-
研究計画概要	<p>いじめは、とりわけ、好発期である中学生において、生徒たちが抱える深刻な問題であり続け、防止策の提案は学術的にも急務である。いじめの抜本的な要因として近年、学級で生じる社会的地位の階層関係である、学級内地位が注目されており (e.g., 森口, 2007), 「スクールカースト」(鈴木・本田, 2012)や「クラス内ステイタス」(久保田, 2018)といった用語を中心に、実証的な検討が積み上げられつつある。その上位に位置づく生徒らはしばしば、発言権を持ち、教師とも良好な関係を築く。他方で、彼らがいじめに関わる事例では、その加害行為が黙認され、教師や保護者の目にも触れにくいゆえ、深刻化しやすいと綴られてきた(e.g., 鈴木, 2013)。学級内地位の高い生徒らに注視した研究は、人気(Popularity)研究として、欧米においてその知見が蓄積されている。その中で「周囲から好感を持たれること(Social Popularity)」と「周囲から『人気者』と認識されること(Perceived Popularity)」は弁別して扱われてきた。学級内で「人気者」と認識されることは、中心的で目立ち、周囲に対して影響力を持つことを意味し、他者に対するいじめ加害行為と正の関連を示すことが明らかにされている。しかしながら我が国では、学級の「人気者」と「好感を持たれる者」の弁別がなされないまま、いじめとの関連が検討されてきた。加えて、学級の「人気者」は従来の研究では、周囲へのネガティブな影響、すなわち、いじめに関わる事例のみに焦点が当てられ、彼らがいじめを予防する可能性や周囲へ与えるポジティブな影響は見落とされている。したがって、本研究の目的を①学級内の「人気者」と「好感を持たれる者」たちの行動特性の差異といじめ関連行動との関連を明らかにすること、②学級の「人気者」の行動特性と学級風土との関連を明らかにすることとする。</p>
選考委員からのコメント	<p>本研究は、いわゆる人気者の行動特性と学級風土やいじめとの関連を明らかにしようとする。その際、1) 人気者について、social popularity と perceived popularity を区別し、また2) 人気者がいじめに関与するネガティブな影響のみならず、彼らがいじめを予防する可能性やポジティブな影響に注目する点に、独自性を有する。研究計画は具体的で準備状況も良好である。</p>